



夢への飛躍

金沢桜丘高校いしかわニュースーパーハイスクールだより



令和4年度 第5号
編集：NSH推進課
発行責任者：正村 泉一

県内在住外国人との交流研修

11月2日(水)、2年人文科学コースの生徒を対象に、CIR(国際交流員)や留学生など12名の外国人をお招きし、交流研修を行いました。「外国語運用能力の向上を図りながら、異文化理解を深める」というのが研修のねらいです。6~7人のグループに外国人2名という充実した環境で、生徒たちは生きたコミュニケーションを満喫しました。

4月から取り組んでいる課題研究を英語でプレゼンするという、今年度からの新たな形の交流も実施されました。この日のために、本校ALTとの添削を繰り返しながら英語原稿を考えたり、スライドを英語化したりなど、精一杯の準備をしてきました。プレゼン後は外国人からのアドバイスや質疑応答なども行われ、なんとか聞き取ろう、英語を伝えようという積極的な姿勢が見られました。まだ課題研究は終わりではありませんが、一定の達成感と今後の研究発表会へのモチベーションが生まれたのではないのでしょうか。こちらのねらい以上にみなさんがいろんなことを感じ、学び取ってくれたことがわかり、胸がいっぱいになりました。

【自己紹介&フリートーク(15分) + 課題研究プレゼンテーション&質疑応答(15分)] × 3sessions



●活動全体について

- 外国人の方は好奇心が旺盛で、自分たちとたくさんコミュニケーションを取ろうとしてくれて楽しかったし、話しやすかった。逆に自分たちは、恥ずかしがったり間違いを恐れたりするのをやめて、どんどん英語を使うべきだと思った。
- お互い理解しようとすれば、下手くそな英語でも会話ができることを改めて感じた。正しい文法も大切だけど、それよりも相手に伝えようとする積極性が大切だと思った。
- いざ伝えようと思ったときにスラスラ言葉が出てこなかったり、うまく伝えられなかったりした場面があったけどなんとか伝えようと努力することができた。言いたいことが伝わったとき、とてもうれしかった。
- 英語で話そうとすると、普段は絶対に分かるはずの英単語もわからなくなるくらい焦ってしまった。
- もっと語彙を増やして、テストの勉強のためではなくいざ街角で声をかけられたときなどのために実践的なリスニング力を高めたい。

●課題研究について

- プレゼンの細かい内容のアドバイスをもらえて、新たに得たこともあり、まだまだ工夫できると思えた。全体的にプレゼンの内容やコンセプトを褒めてもらえて嬉しかった。本番までにもっと内容を詰めていきたい。
- 回数を重ねるごとに発表やコミュニケーションのとり方がうまくなっていったように感じた。客観的にプレゼンを見てもらったことで自分たちのプレゼンの改善点が多く見つかったので、校内発表会に向けてグループのみんなと協力して課題研究をすすめていきたい。